

## 12. 医学研究科

(1) 医学研究科の教育目的と特徴	・ ・ ・ ・	12-2
(2) 「教育の水準」の分析	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	12-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	12-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	12-9
【参考】データ分析集 指標一覧	・ ・ ・ ・ ・ ・	12-11

## (1) 医学研究科の教育目的と特徴

医学研究科は、医学を、生命科学と理工学を基盤とし、個および集団としての人の健康と病気を取り扱う総合的な学問と位置づけ、生命現象の根本原理、病気の成因、病態の機構を解明し、その成果を先進的医療と疾病予防に発展させる国際的研究拠点を形成する。これにより、専門領域での深い学識に加え基礎生物学から臨床医学・社会医学・人間健康科学までを見通す広い視野を備えた医学研究者の養成を行うことを目的としている。

京都大学大学院医学研究科は昭和 30 (1955) 年に開設され、まず、生理系専攻、病理系専攻、社会医学系専攻、内科系専攻、外科系専攻が設置された。その後、医学研究及び医療の高度化に伴い、大学院を拡充・強化する必要から、昭和 60 (1985) 年には独立専攻として分子医学専攻が設置され、平成 2 (1990) 年には脳統御医科学系専攻が設置された。このように京都大学医学部では従来から大学院重視の方向性を求めてきたが、その後文部科学省が学術審議会などの答申を受けて大学院重視の線を打ち出したことから、最終的に平成 5 (1993) 年から 3 年計画で大学院重点化、いわゆる「大学院化」が行われた。さらに、平成 9 (1997) 年には客員講座である先端・国際医学講座が連携大学院として発足した。また、平成 12 年には社会健康医学系専攻(修士課程、博士後期課程)、医科学専攻(修士課程)を設置し、医学研究科における大学院教育の拡充・充実を図った。次いで、平成 15 (2003) 年には社会健康医学系専攻の専門大学院・修士課程を、専門職学位課程に改組した。さらに、平成 19 年度には人間健康科学系専攻に修士課程を、平成 21 (2009) 年度には博士後期課程を開設した。平成 26 (2014) 年には医学専攻博士課程、医科学専攻博士後期課程の定員増加の概算要求を行い、平成 27 (2015) 年度の入学定員に反映された。

現状の医学研究科は、医学専攻、医科学専攻、社会健康医学系専攻、人間健康科学系専攻の 4 専攻からなり、あわせて 100 を超える研究分野が基礎医学から臨床医学、予防医学までをカバーする広い領域の教育研究を展開している。これら多様な研究分野においては、それぞれが根本原理の追求を踏まえ、うえて世界の最先端にある高度な専門的能力の修得を目指している。本研究科は、卓越した研究活動を行うとともに、将来の医学生物学を担いその中で指導的な役割を果たせ、かつ国際的に活躍し得る優れた若手研究者を育成することを重要な使命と考えている。

こうした使命は大学全体の「多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹とした自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養に努める」目標に沿ったものであり、「豊かな教養と人間性を備え、責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に貢献し得る、優れた研究能力や高度の専門知識をもつ人材を育成する」(中期目標前文) こととつながるものである。

## (2) 「教育の水準」の分析

### 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

#### <必須記載項目1 学位授与方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 5212-i1-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目2 教育課程方針>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 5212-i2-1）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

#### <必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

##### 【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料  
（別添資料 5212-i3-1～2）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料  
（別添資料 5212-i3-3）
- ・ 研究指導、学位論文（特定課題研究の成果を含む。）指導体制が確認できる資料（別添資料 5212-i3-4～5）

##### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- シラバスとコースツリーを提示し、シラバスと連携のとれた科目ナンバリングを整備することにより、体系的なカリキュラムを明確化した。[3.1]
- 2017年度に京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻（ジョイント・ディグリープログラム）を設置し、マギル大学との共同開設科目を開講した。[3.1]

## 京都大学医学研究科 教育活動の状況

- 社会人特別選抜を活用し、多様な大学院生の入学を促進した。[3.2]
- 人間健康科学系専攻では、カリキュラムの体系的な構築のため、各科目のシラバスをディプロマポリシー、カリキュラムポリシー（教育目的）に即したものとすするため、教務・教育委員会にて検討し、適宜修正を行った。[3.1]
- 人間健康科学系専攻では、平成 30（2018）年度より修士課程に主に社会人を念頭に置いた専門看護師課程・医学物理士のプログラムを導入し、平成 30（2018）年度は 2 名ずつ、平成 31（2019）年度は 4 名と 2 名がそれぞれ入学した。また、平成 31（2019）年度からは 2 つの履修証明プログラムを立ち上げ、それぞれ 8 名と 12 名が履修しており、社会のニーズや課題に即したプログラムを実施している。  
[3.2]（別添資料 5212-i3-6「医学研究科人間健康科学系専攻学事要項（2019 年度）【抜粋】」、別添資料 5212-i3-7「履修証明プログラム募集要項（医学研究科人間健康科学系専攻、2019 年度）」）

### <必須記載項目 4 授業形態、学習指導法>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 1 年間の授業を行う期間が確認できる資料  
（別添資料 5212-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料  
（別添資料 5212-i4-2～3）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
（別添資料 5212-i4-4）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる資料  
（別添資料 5212-i4-5）
- ・ 指標番号 5、9～10（データ分析集）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 医学専攻において、専門分野に加えて臨床・基礎・社会医学を横断する大学院教育コースを設置し、分野科目に加えてコース科目の履修を義務付けている。この制度により高度専門研究者養成を行う専門分野での教育と医学研究科全域にわたる知識の習得をすることが可能である。2019 年度より医科学専攻においてもカリキュラムの見直しを行い、大学院教育コース（修士）を開講し、分野横断型の幅広い医学教育を可能にした。また、医学英語を必修化することにより医学教育に必要な英語教育強化を行った。[4.1]

## 京都大学医学研究科 教育活動の状況

- 大学院教育コースにおいて、人間健康医学系専攻、iPS 細胞研究所、ウイルス・再生医科学研究所等の教員と連携し教育を行った。[4. 4]
- リーディングプログラム・政策のための科学プログラム等のプログラム履修を推奨し、学生の学習意欲を高めている。[4. 1]
- 人間健康科学系専攻の助産師課程、専門看護師コース、医学物理士コースでは、主に附属病院で臨床実習を実施している。[4. 1]
- 人間健康科学系専攻では、修士課程は必修科目の初回講義、博士後期課程は新生ガイダンス時に研究倫理に関する講義を実施している。[4. 5]（別添資料 5212-i4-6「大学院博士後期 1 回生ガイダンス日程表（医学研究科人間健康科学系専攻、2019 年度）」、別添資料 5212-i4-7「「人間健康科学特論」シラバス（医学研究科人間健康科学系専攻、2019 年度）」）
- 人間健康科学系専攻では、修了時に教員が「研究指導報告書」を作成し、学習成果をレーダーチャートで示し、可視化を実施している。[4. 7]（別添資料 5212-i4-8「研究指導報告書(修士・博士)(医学研究科人間健康科学系専攻、2018 年度)」）

### <必須記載項目 5 履修指導、支援>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 5212-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 5212-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 5212-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 5212-i5-4）

#### 【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 標準修業年限を超えて在籍している学生の留年理由を指導教授に確認し、研究科運営委員会に状況調査結果を報告し、問題等あれば関係教員に連絡し対応依頼している。[5. 1]
- 人間健康科学系専攻では、指導教員がチューターとして学習支援を実施している。[5. 1]
- 人間健康科学系専攻では、障害等で講義時に合理的配慮が必要な学生に対し、障害学生支援ルームと連携して対応を行っており、平成 31（2019）年度は 1 名の大学院生に対して支援を実施した。[5. 0]

**<必須記載項目 6 成績評価>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 成績評価基準（別添資料 5212-i6-1～2）※2019 年度改訂版
- ・ 成績評価の分布表（別添資料 5212-i6-3～4）
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料（別添資料 5212-i6-5～6）

**【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】**

○成績評価分布表を作成し、研究科運営委員会において問題がないか確認された。

[6. 2]

○人間健康科学系専攻では、成績評価の基準及び成績評価に関する申立ての手続きを学事要項で学生に周知している。また、成績評価の分布等を教務・教育委員会にて確認し、教育効果につき検討を行っている。また、GPA 制度の導入により、学習成果の可視化をはかっている。[6. 2]

**<必須記載項目 7 卒業（修了）判定>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定（別添資料 5212-i7-1～2）
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業（修了）判定の手順が確認できる資料（別添資料 5212-i7-3～5）
- ・ 学位論文の審査に係る手続き及び評価の基準（別添資料 5212-i7-6～10）
- ・ 修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方が確認できる資料（別添資料 5212-i7-11～13）
- ・ 学位論文の審査体制、審査員の選考方法が確認できる資料（別添資料 5212-i7-14）

**【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】**

○ 学位論文の審査にかかる手続きは HP において公開している。 [7. 1]

○ 学位論文の評価体制も確立しており、厳格な評価が行われている。 [7. 2]

○ 人間健康科学系専攻では、修士修了判定については教授会で審議後、医学研究科専攻長会議でも審議の上、決定する。また、博士修了判定については教授会で審議後、医学研究科会議でも審議の上、決定する判定体制を整えている。 [7. 1]

**<必須記載項目 8 学生の受入>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 5212-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 5212-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 社会人特別選抜を実施し、多様な学生を受け入れている。[8.1]
- 入学定員充足率は満たしており、安定した入学者を得ている。[8.2]
- 人間健康科学系専攻では、修士課程で社会人特別選抜を実施し、多様な学生の受入体制を整えている。[8.1]

**<選択記載項目 A 教育の国際性>**

**【基本的な記載事項】**

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数  
（別添資料 5212-i4-4）（再掲）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 2017年度に京都大学・マギル大学ゲノム医学国際連携専攻（ジョイント・ディグリープログラム）を設置し、学生の国際性を伸ばしている。[A.1]

**<選択記載項目 B 地域・附属病院との連携による教育活動>**

**【基本的な記載事項】**

（特になし）

**【第3期中期目標期間に係る特記事項】**

- 人間健康科学系専攻の助産師課程、専門看護師コース、医学物理士コースでは、主に附属病院で臨床実習を実施し、連携して実習を行っている。[B.1]（別添資料 5212-iB-1「修士実習科目シラバス（医学研究科人間健康科学系専攻、2019年度）」）

<選択記載項目C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

(特になし)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 人間健康科学系専攻では、毎年テーマを設定してFD 討論会を実施している。平成 30 (2018) 年度は認証評価や IR 等について実施した。[C.1] (別添資料 5212-iC-1「第11回Health Science Café (人間健康FD 討論会) ポスター (2019年3月実施)」)

<選択記載項目D リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラムが公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所 (別添資料 5212-iD-1)
- ・ 指標番号 2、4 (データ分析集)

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 履修証明プログラム「現場で働く指導医のための医学教育学プログラムー基礎編」を実施し、様々な医療機関から多数の応募があり、選考の上、履修者を決定し、プログラムを実施した。[D.1]
- 人間健康科学系専攻では、平成 30 (2018) 年度より修士課程に主に社会人を念頭に置いた専門看護師課程・医学物理士のプログラムを導入し、平成 30 (2018) 年度は2名ずつ、平成 31 (2019) 年度は4名と2名がそれぞれ入学した。また、平成 31 (2019) 年度からは2つの履修証明プログラムを立ち上げ、それぞれ8名と12名が履修しており、社会のニーズや課題に即した社会人向けプログラムを実施している。[D.1] (別添資料 5212-i3-6「医学研究科人間健康科学系専攻学事要項 (2019年度) 【抜粋】」 (再掲)、別添資料 5212-i3-7「履修証明プログラム募集要項 (医学研究科人間健康科学系専攻、2019年度)」 (再掲))



## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

### <必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業（修了）率（別添資料 5212-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業（修了）率（別添資料 5212-ii1-1）
- ・ 博士の学位授与数（課程博士のみ）（入力データ集）
- ・ 指標番号 14～20（データ分析集）
- ・ 医学課程卒業者の医師国家試験合格率（厚生労働省公表）
- ・ 看護学課程卒業者の看護師国家試験合格率（厚生労働省公表）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 博士学位授与数は、課程博士については、年間 140 件以上である。 [1. 1]
- 学生が受賞した学会賞等は、平成 30（2018）年度に 36 件に上っている。 [1. 2]
- 人間健康科学系専攻修士課程の助産師課程では、修了時に助産師の国家資格試験を受験することで、学習成果の可視化が図られている。平成 30（2018）年度は 100%の合格率を誇っている。 [1. 2]（別添資料 5212-ii1-2「医学部人間健康科学科国家試験合格率一覧（2018 年度）」）

### <必須記載項目2 就職、進学>

#### 【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

#### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 就職率は例年 90%を超え、80%は医療分野・教育分野に就職しており、高度医療人材の育成を実現している。 [2. 1]
- 人間健康科学系専攻では、修士修了者の約 80%が民間企業・病院へ就職するが、1 割程度の学生は引き続いて博士後期課程へ進学する。その後、博士後期課程修了後に数名が大学教員となるが、中には京都大学の教員となって継続的に研究を行う者もいる。 [2. 1]

### <選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

#### 【基本的な記載事項】

## 京都大学医学研究科 教育成果の状況

- ・ 学生からの意見聴取の概要及びその結果が確認できる資料  
(別添資料 5212-iiA-1)

### 【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 修了者アンケートによると医学研究科の学習について、回答者の90%以上が満足している又はある程度満足していると回答している。[A. 1]
- 人間健康科学系専攻では、修了時にアンケート調査を実施し、進路だけでなく、資格の取得状況やディプロマポリシーの達成度等も調査の上、確認している。特に、ディプロマポリシーの達成度では、半分以上の修了生が「身につけており自信がある」と回答しており、概ね目標が達成されている。[A. 1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数(常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路データ	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 一部の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。